

耳鼻咽喉科

この冬の感染症の流行に備え、予防接種は受けましょう

今年度のインフルエンザ予防接種



お答え
佐藤耳鼻咽喉科
佐藤孝至 院長

■プロフィール 愛知医科大学を平成元年卒業、広島大学病院・耳鼻咽喉科、県立広島病院・耳鼻咽喉科、市立三次中央病院・耳鼻咽喉科などの勤務を経て、愛知学院大学歯学部准教授ならびに歯学部附属病院・耳鼻咽喉科科長などを歴任。平成28年9月から佐藤耳鼻咽喉科医院院長、日本耳鼻咽喉学会専門医、博士(医学)
(メモ) ☎084(921)1678
(御船町1-11-11)
<http://satoent.jp/hospital/>

「佐藤耳鼻咽喉科」の佐藤孝至院長に、今年度のインフルエンザの予防接種について聞きました。

Q 今年、インフルエンザは流行するでしょうか…。

A 昨年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックによって、訪日旅行

客の激減と、3密を避ける生活様式への変化に加えて、マスクの着用とアルコールによる手指衛生の徹底により、例年のようなインフルエンザの大流行はありませんでした。しかしながら、今年も流行しないという保証

はありません。逆に、昨年インフルエンザの流行がなかったため、日本国民の中には十分な免疫を持っていない人もいると推察され、その反動で大流行する可能性

性もあります。

Q インフルエンザを含め感染症を予防するためには、ワクチンを接種したほうが良いということでしょうか。インフルエンザに予防薬はないのですか。

A 数年前から、ワクチンで予防できる感染症は、ワクチン接種をして予防するというのが時代の主流となり、十分な抗体を保有していない人に対しては、麻疹(はし)か、風疹(三日ぼしか)、おたふくかぜなどのワクチン接種が定期予防接種(公費負担)による接種となっており、推奨されてきました。現在、新型コロナウイルス感染症に対するワ

クチン接種が広く進んだことで、全国の感染者数が激減しているのも、ワクチンの効果が大きいと推察されます。

新型コロナウイルス感染症と違って、インフルエンザには、タミフルやゾフルーザ、イナビルなど、治療薬としてのみならず、予防薬としても使用できる薬剤がありません。ただ、薬剤耐性インフルエンザウイルス出現の可能性を回避する意味でも、ワクチンによる予防接種を第一選択するよう推奨されています。

Q 新型コロナウイルスのワクチンを接種した前後でも、インフルエンザのワクチンを接種して大丈夫ですか。副反応などが心配です。

A インフルエンザに対するワクチンは、生ワクチンではなく不活化ワクチンに該当します。インフルエンザの間隔を空ければ、接種可能です。どんなワクチンにも副反応が出現する可能性はありますが、例年よりもワクチンの供給量が少ないようですので、早めの対処が必要で、この冬の感染症の流行に備えて、インフルエンザに対するワクチン接種について、かかりつけ医に相談されることをお勧めします。